

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科午	学年	2	開講区分	半期	担当教員 今井 紀代子先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数	15
生理学Ⅱ									

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

医療の基礎となる生理学のうち、内分泌系・生殖系・感覚系・生体の防御機構を習得する授業を行う。医学の基礎であり、医学連携を意識し共通言語であることを考えながら受講して欲しい。座学での授業であるため、しっかり復習して授業に臨んで欲しい。

〔到達目標〕

医学の基礎となる生理学の知識を習得する。身体の正常な働きを説明できるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

生理学[医歯薬出版]

〔準備学習・時間外学習〕

専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習してくること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	第8章 内分泌A、ホルモンの特徴～B、ホルモンの種類とその働き (視床下部と下垂体)	内分泌腺を理解できる。ホルモンの性質、作用機序、分泌調節を理解できる。
2	第8章 B、ホルモンの種類とその働き(下垂体ホルモン～副甲状腺ホルモン)	下垂体～副甲状腺から分泌されるホルモンとその働きが理解できる。
3	第8章 B、ホルモンの種類とその働き(膵臓ホルモン～副腎ホルモン)	膵臓～副腎から分泌されるホルモンとその働きが理解できる。
4	第8章 B、ホルモンの種類とその働き(精巣・卵巣のホルモン～その他)第9章 生殖・成長と老化 A、生殖～	性腺から分泌されるホルモンとその働きが理解できる。生殖器の構造と働きを理解できる。
5	第9章 b.女性生殖器 (2)性周期	女性性周期を理解できる。
6	第9章 B、妊娠と出産～D、老化	妊娠～出産までの流れを理解できる。老化について理解できる。
7	確認テスト第13章 感覚 A、感覚一般～	テストにより効果測定、理解度の把握。感覚を分類することができ、各種感覚に共通する一般的特徴を理解できる。
8	テスト返却・解説第13章 B、体性感覚～	テストの解説。体性感覚、内臓感覚について理解できる。
9	第13章 D、痛覚	痛覚について理解できる。
10	第13章 特殊感覚①	特殊感覚である味覚・嗅覚・聴覚を理解できる。
11	第13章 特殊感覚②	特殊感覚である平衡感覚・視覚を理解できる。
12	第14章 生体の防御機構生体の防御機構 a.非特異的防御機構～ c.白血球の働き	非特異的防御機構・特異的防御機構の特徴を理解できる。
13	第14章 免疫に働く液性因子～B、免疫反応	免疫系で働く白血球や液性因子の働きを理解できる。
14	期末テスト第15章 身体活動の協調	テストにより効果測定、理解度の把握。生体が環境に順応・適応する仕組み、ホメオスタシス機構について理解できる。
15	テスト返却・解説第15章	テストの解説。総復習

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。筆記試験は確認テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。必要に応じ配布プリントによる授業を行う。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科	学年 2	開講区分 半期	担当教員 柏崎 雅大 先生
授業科目名 解剖生理学	必修/選択 必修	授業形態 講義	時間数(単位) 30(1) 授業回数 15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

教員資格を持つ鍼灸師が、基礎医学である解剖学、及び生理学を習得する授業を行う。解剖学では生殖器系、感覚器系について、生理学では筋、運動についての講義を行う。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。

〔到達目標〕

解剖学:生殖器の構造、特殊感覚の構造と伝導路について理解し、自ら要点を整理することができる。生理学:筋の機能、運動の仕組みについての知識を習得し、自ら要点を整理することができる。

〔使用教材、参考文献等〕

解剖学(医歯薬出版)
生理学(医歯薬出版)
解剖学トレーニングノート(医学教育出版社)

〔準備学習・時間外学習〕

専門用語が多い科目のため、あらかじめ教科書や配布資料を予習すること。また復習をし、人体の構造や機能を理解することが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	解剖学 第6章 生殖器系;男性生殖器	精巣の構造、精子の発生と精路の構造を理解する。
2	解剖学 第6章 生殖器系;女性生殖器	卵巣の構造、卵子の発生を理解する。
3	解剖学 第6章 生殖器系;女性生殖器、発生	子宮、膣の構造を理解する。発生の諸段階を理解する。
4	解剖学 第9章 感覚器;視覚器	眼球の構造、視覚の伝導路を理解する。
5	解剖学 第9章 感覚器;平衡聴覚器	聴覚器の構造、聴覚の伝導路を理解する。平衡覚の構造を理解する。
6	解剖学 第9章 感覚器;平衡聴覚器、味覚器、嗅覚器	平衡覚の構造、平衡覚の伝導路を理解する。味覚器と嗅覚器の伝導路を理解する。
7	解剖学 復習 確認テスト	生殖器および感覚器の構造を復習・確認テストを行い、理解できていない内容を把握し、理解力を高める。
8	生理学 第11章 筋 A骨格筋の構造と働き~B筋の収縮の仕組み	骨格筋の微細構造と、興奮収縮連関を理解できる。
9	生理学 第11章 筋 Cエネルギー供給の仕組み	筋収縮のエネルギー代謝と熱産生を理解できる。
10	生理学 第11章 心筋と平滑筋	心筋と平滑筋の構造を理解できる。心筋、平滑筋、骨格筋の特徴と相違を理解できる。
11	生理学 第12章 運動 A骨格筋の支配神経~e骨格筋の緊張	骨格筋の支配神経を理解できる。
12	生理学 第12章 運動 B運動の調節	中枢神経の各レベルの運動調節機構を理解できる。
13	生理学 第12章 C錐体路系と錐体外路系~D発生と言語	運動の伝導路を理解できる。
14	生理学 復習 確認テスト	筋および運動の機能を復習・確認テストを行い、理解できていない内容を把握し、理解力を高める。
15	期末テスト 解答・解説	テストによる効果測定を行い、理解できていない内容を把握し、復習することで理解力を高める。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。
筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	2	開講区分	半期	担当教員 東野 友寛先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
運動学									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
患者に対しての運動指導を経験し、姿勢や歩行について知見を有する教員が、運動学を習得する授業を行う。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。									
〔到達目標〕									
身体運動を分析する基本的観点と専門用語を理解することを目的とし、身体各部の詳細と運動を知る。さらに姿勢や歩行について知識を身につけ、理解、説明できるようにする。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
リハビリテーション概論(医歯薬出版)					専門用語が多い科目のため、あらかじめ教科書や配布資料を予習すること。また復習をし、人体各部のの構造や機能を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	オリエンテーション A. 運動学の基礎 1. 関節と運動の力学				運動学の定義を理解できる。				
2	A.運動学の基礎 2. 姿勢とその異常				正常立位と異常立位の違いを理解できる。				
3	A.運動学の基礎 3. 運動路と感覚路				錐体路と錐体外路の違いを理解できる。				
4	A.運動学の基礎 4. 反射と随意運動				姿勢反射と立ち直り反射を理解できる。				
5	B.身体各部の機能 1. 脊柱・体幹の機能/確認テスト①				脊柱の動きと胸郭の動きを理解できる。				
6	B.身体各部の機能 2. 肩甲帯・肩の機能				肩甲上腕リズム・肩の動きを理解できる。				
7	B.身体各部の機能 3. 肘と前腕の機能				肘と前腕の動きと、作用する筋を理解できる。				
8	B.身体各部の機能 4. 手と手の機能				手のアーチと手に起こりやすい変形を理解できる。				
9	B.身体各部の機能 5. 骨盤と股関節の機能/確認テスト②				骨盤と股関節の動きを理解できる。				
10	B.身体各部の機能 6. 膝関節の機能				膝関節のメカニクスについて理解できる。				
11	B. 身体各部の機能 7. 足の機能				足関節の動きと、起こりやすい変形を理解できる。				
12	B.身体各部の機能 8. 正常歩行と異常歩行				歩行サイクルについて理解できる。				
13	B.身体各部の機能 9. 顔面および頭部の筋				頭顔面部の筋と動きを理解できる。				
14	総復習				運動学全般を復習し、習熟度を高めることが出来る。				
15	期末テスト 解答・解説				テストによる効果測定を行い、理解できていない内容を把握し、復習することで理解力を高める。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テスト①と確認テスト②と期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	2	開講区分	通年	担当教員 櫻井 恵司 先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数	15
病理学概論									
〔授業の学習内容と心構え〕									
教員資格を持つ鍼灸師、または病理学について知見を有する教員が、疾病によって起こる様々な変化、疾病の発生機序と転機についての講義を行う。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。									
〔到達目標〕									
病因、循環障害、退行性病変、進行性病変の病態について理解し、自ら要点を整理し、知識を得ることを目標とする。									
〔使用教材、参考文献等〕 病理学概論(医歯薬出版)				〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、あらかじめ教科書や配布資料を予習すること。また復習をし、人体の構造や機能を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	オリエンテーション 第1章 病理学とは 第2章 疾病についての基本的な考え方			病理学とは何か、疾病の分類について理解できる。					
2	第3章 病因・内因;素因、遺伝、内分泌			年齢、性により罹患しやすい疾患を理解できる。染色体異常により生じる疾患を理解できる。内分泌疾患を理解できる。					
3	第3章 病因・内因;免疫、外因;供給障害			免疫応答の概要を理解できる。					
4	第3章 病因・外因;供給障害 内因確認テスト			ビタミンや無機塩類の過不足により生じる疾患や症状を理解できる。					
5	第3章 外因;物理的病因、化学的病因			放射線の感受性の高い器官を理解できる。化学物質により生じる疾患を理解できる。					
6	第3章 外因;医原病、環境汚染、生物学的病因			医療行為により発症する疾患を理解できる。日和見感染や菌交代現象について理解できる。					
7	第3章 外因;生物学的病因 第4章 循環障害;ヒトの循環系			病原微生物と病原微生物により生じる感染症を理解できる。ヒトの血液循環を復習し、理解できる。					
8	第4章 循環障害;充血・うっ血、貧血・虚血、出血 外因確認テスト			重要なうっ血と発生機序を理解できる。貧血の種類と疾患を理解できる。出血の種類と分類を理解できる。					
9	第4章 循環障害;血栓症、塞栓症、梗塞			血栓形成の誘因を理解できる。塞栓症や塞栓の種類を理解できる。貧血性梗塞と出血性梗塞を起こしやすい器官を理解する。					
10	第4章 循環障害;水腫・浮腫・脱水症			浮腫の病態生理を理解できる。一次性脱水症と二次性脱水症の病態生理を理解できる。					
11	第4章 循環障害;ショック 第5章 退行性病変;萎縮、変性			一次性ショックと二次性ショックの相違、およびショックの原因とその病態を理解できる。変性の分類と疾患を理解できる。					
12	第5章 退行性病変;加齢と老化、生活習慣病、壊死と死 循環障害確認テスト			加齢が影響する疾患を理解できる。主な生活習慣病の病態を理解できる。壊死の分類、病態生理を理解できる。					
13	第5章 退行性病変;壊死と死、アポトーシス 第6章 進行性病変;肥大と増殖			脳死の判定基準について理解できる。脳死と植物状態の相違を理解できる。肥大の分類と病態を理解できる。					
14	第6章 進行性病変;再生、化生、移植			再生の分類について理解できる。化生と腫瘍の関係を理解できる。移植の分類と拒絶反応を理解できる。					
15	期末テスト 解答・解説			テストによる効果測定を行い、理解できていない内容を把握し、復習することで理解力を高める。					
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	2	開講区分	通年	担当教員 櫻井 恵司 先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
病理学概論									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
教員資格を持つ鍼灸師、または病理学について知見を有する教員が、疾病によって起こる様々な変化、疾病の発生機序と転機についての講義を行う。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。									
〔到達目標〕									
炎症、腫瘍、免疫・アレルギー、先天性異常の病態について理解し、自ら要点を整理し、知識を得ることを目標とする。									
〔使用教材、参考文献等〕 病理学概論(医歯薬出版)					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、あらかじめ教科書や配布資料を予習すること。また復習をし、人体の構造や機能を理解することが望ましい。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
16	第6章 進行性病変;創傷治癒・組織内異物の処理 第7章 炎症;炎症の一般				創傷治癒の過程を理解できる。異物の処理の種類を理解できる。炎症の機序を理解できる。				
17	第7章 炎症;炎症の一般、炎症の分類				炎症の機序を理解できる。炎症の分類と疾患を理解できる。				
18	第7章 炎症;炎症の分類 第8章 腫瘍				主な特異性炎の病態を理解できる。				
19	第8章 腫瘍;腫瘍の一般				細胞異型について理解できる。腫瘍組織について理解できる。				
20	第8章 腫瘍;腫瘍の一般				腫瘍の分類について理解できる。				
21	確認テスト 解答・解説				テストによる効果測定を行い、理解できていない内容を把握し、復習することで理解力を高める。				
22	第8章 腫瘍;腫瘍の一般				前癌病変を理解できる。転移しやすい器官、転移方式について理解できる。				
23	第8章 腫瘍;腫瘍の一般、良性腫瘍、悪性腫瘍				腫瘍の発生原因(外因)について理解できる。				
24	第9章 免疫異常・アレルギー:液性免疫と細胞性免疫				免疫の概要を理解する。抗体の種類と特徴を理解できる。				
25	第9章 免疫異常・アレルギー:アレルギー				アレルギーの分類とその病態、具体的な疾患を理解できる。				
26	第9章 免疫異常・アレルギー;免疫不全、自己免疫異常				免疫不全について理解できる。非特異的臓器自己免疫疾患について理解できる。主な自己免疫疾患について理解できる。				
27	第10章 先天性異常;先天性異常総論				先天性代謝異常について理解できる。染色体異常に基づく奇形を理解できる。				
28	第10章 先天性異常;先天性異常総論				催奇性因子について理解できる。奇形の分類を理解できる。				
29	第10章 先天性異常;遺伝性疾患、染色体異常				単純遺伝性の異常を理解できる。				
30	期末テスト 解答・解説				テストによる効果測定を行い、理解できていない内容を把握し、復習することで理解力を高める。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科	学年	2	開講区分	通年	担当教員		
授業科目名						山田 英史先生		
臨床医学総論		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数
								15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

様々な疾患の鑑別に従事していた教員が、全ての医療職に必要とされる診察法と症候について、基礎的な知識や理解を深める授業を行う。

座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。またチーム医療の必要性を理解し、鍼灸師が担う医療について知見を広めて欲しい。

〔到達目標〕

医療面接技法、診察の概要・方法、生命聴講、全身の診察、局所の診察の知識を習得することを目標とする。
各診察について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。

〔使用教材、参考文献等〕

臨床医学総論(医歯薬出版)

〔準備学習・時間外学習〕

専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくること。また、授業後は復習をし、用語の意味を理解することが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	・第1章;診察の概要・第2章;診察の方法 医療面接の意義、関連用語、診察の意義と方法	医療面接の意義、関連用語、診察の意義と方法について理解できる。
2	・第2章;診察の方法 視診、触診、打診	視診、触診、打診の意義と方法について理解できる。
3	・第2章;診察の方法 聴診、測定法、神経系の診察	聴診、測定法、神経系の診察の意義と方法について理解できる。
4	・第3章;生命聴講(バイタルサイン)の診察 体温、脈拍	体温、脈拍の診察の意義と診察方法について理解できる。
5	・第3章;生命聴講(バイタルサイン)の診察 血圧、呼吸	血圧、呼吸の診察の意義と診察方法について理解できる。
6	・第4章;全身の診察 顔貌、精神状態、言語	顔貌、精神状態、言語の診察の意義と診察方法について理解できる。
7	・第4章;全身の診察 身体計測、体型・体格、栄養状態、姿勢と体位	身体計測、体型・体格、栄養状態、姿勢と体位の診察の意義と診察方法について理解できる。
8	確認テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
9	・第4章;全身の診察 歩行	歩行の診察の意義と診察方法について理解できる。
10	・第4章;全身の診察 皮膚・粘膜・皮下組織、爪の状態	皮膚・粘膜・皮下組織、爪の状態の診察の意義と診察方法について理解できる。
11	・第4章;全身の診察 リンパ節、その他の一般的状態	リンパ節、その他の一般的状態の診察の意義と診察方法について理解できる。
12	・第5章;局所の診察 頭部・顔面	頭部・顔面の診察の意義と診察方法について理解できる。
13	・第5章;局所の診察 眼、鼻	眼、鼻の診察の意義と診察方法について理解できる。
14	・第5章;局所の診察 耳、口腔	耳、口腔の診察の意義と診察方法について理解できる。
15	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。
筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科	学年	2	開講区分	通年	担当教員 山田 英史先生		
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数 15
臨床医学総論								

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

様々な疾患の鑑別に従事していた教員が、全ての医療職に必要とされる適切な診察法と症候について、基礎的な知識や理解を深める授業を行う。

座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。またチーム医療の必要性を理解し、鍼灸師が担う医療について知見を広めて欲しい。

〔到達目標〕

局所の診察、神経系の診察、運動機能検査、その他の診察、臨床検査法、おもな症状の診察法、治療学、臨床心理の知識を習得することを目標とする。

各診察について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。

〔使用教材、参考文献等〕

臨床医学総論(医歯薬出版)

〔準備学習・時間外学習〕

専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくること。また、授業後は復習をし、用語の意味を理解することが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
16	・第5章;局所の診察 頸部、胸部、乳房、肺・胸膜	頸部、胸部、乳房、肺・胸膜の診察の意義と診察方法について理解できる。
17	・第5章;局所の診察 腹部・背部	腹部・背部の診察の意義と診察方法について理解できる。
18	・第5章;局所の診察 四肢	四肢の診察の意義と診察方法について理解できる。
19	・第6章;神経系の診察 感覚検査法、反射検査	感覚検査法、反射検査の診察の意義と診察方法について理解できる。
20	・第6章;神経系の診察 脳神経系の検査、髄膜刺激症状検査、その他の検査	脳神経系の検査、髄膜刺激症状検査、その他の検査の診察の意義と診察方法について理解できる。
21	・第6章;神経系の診察 運動麻痺、筋肉の異常、不随意運動	運動麻痺、筋肉の異常、不随意運動の診察の意義と診察方法について理解できる。
22	中間テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
23	・第6章;神経系の診察 協調運動～徒手による整形外科的検査法	協調運動～徒手による整形外科的検査法の診察の意義と診察方法について理解できる。
24	・第8章;その他の診察 救急時の診察～高齢者の診察 ・第9章;臨床検査法 一般検査	救急時の診察～高齢者の診察、一般検査の診察の意義と診察方法について理解できる。
25	・第9章;臨床検査法 血液生化学検査、生理学的検査および画像診断の概要	血液生化学検査、生理学的検査および画像診断の概要の診察の意義と診察方法について理解できる。
26	・第11章;治療学 ・第12章;臨床心理	治療学、臨床心理における診察の意義と診察方法について理解できる。
27	・第10章;おもな症状の診察①	各種症状の定義・概念、病態生理、分類および原因疾患、臨床症状、検査と鑑別診断、治療について理解できる。
28	・第10章;おもな症状の診察②	各種症状の定義・概念、病態生理、分類および原因疾患、臨床症状、検査と鑑別診断、治療について理解できる。
29	・第10章;おもな症状の診察③	各種症状の定義・概念、病態生理、分類および原因疾患、臨床症状、検査と鑑別診断、治療について理解できる。
30	期末テスト 解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。
筆記試験は中間テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	2	開講区分	半期	担当教員 藤掛 雅博先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
経絡経穴概論Ⅱ									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
経絡経穴とは病状の分析、病機変化の検討を制定するための重要なものであり、古くから鍼灸師が重視してきたものである。経絡経穴概論Ⅱでは初心者の臨床応用を強化するために基礎から応用へ展開していく。									
〔到達目標〕 基礎力を固め、考える力を養う。									
〔使用教材、参考文献等〕 新版 経絡経穴概論 医道の日本社				〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくること。また、授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。					
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	流注・骨度法など			流注・骨度法などを理解できる。					
2	手の陰経:取穴部位・要穴			手の陰経:取穴部位・要穴を理解できる。					
3	手の陽経:取穴部位・要穴			手の陽経:取穴部位・要穴を理解できる。					
4	背部:取穴部位・要穴			背部:取穴部位・要穴を理解できる。					
5	確認テスト			1～4で習得した知識の再確認ができる。					
6	足の陽経:取穴部位・要穴1			足の陽経:取穴部位・要穴を理解できる。					
7	足の陽経:取穴部位・要穴2			足の陽経:取穴部位・要穴を理解できる。					
8	足の陰経:取穴部位・要穴			足の陰経:取穴部位・要穴を理解できる。					
9	胸部・腹部:取穴部位・要穴			胸部・腹部:取穴部位・要穴を理解できる。					
10	要穴まとめ・組合せ穴			要穴まとめ・組合せ穴を理解できる。					
11	奇経など			奇経を理解できる。					
12	頸部・顔面・頭部:取穴部位			頸部・顔面・頭部:取穴部位を理解できる。					
13	頸部・顔面・頭部:取穴部位			頸部・顔面・頭部:取穴部位を理解できる。					
14	定期試験			問題の解法が導きだせるようになる。					
15	解答・解説, 総復習			期末試験の解答解説を行う。					
〔評価について〕 評価は 筆記試験で行う。暗唱(30点)と確認テスト(20点)と期末テスト(70点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 十四経については所属する経穴名が所定の時間内に暗唱できること。必ず復習を行うこと。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	2	開講区分	通年	担当教員 佐々木 史子先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
臨床医学各論Ⅰ									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
様々な疾患の鑑別に従事している教員が、主要な疾患の一般的な臨床症状、病態、診断、治療法について、基礎的な知識や理解を深める授業を行う。 座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。									
〔到達目標〕									
感染症、消化管疾患、肝・胆・膵疾患、呼吸器疾患の知識を習得することを目標とする。 各疾患について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。									
〔使用教材、参考文献等〕 臨床医学各論(医歯薬出版)					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習してくること。また授業後は復習をし、各単元で学んだ疾患について必要な知識を列挙できるようになることが望ましい。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	第1章;感染症 総論、細菌感染症				感染症総論、細菌感染症の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
2	第1章;感染症 細菌感染症、ウイルス感染症、性感染症				細菌感染症、ウイルス感染症、性感染症の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
3	第1章;感染症 ウイルス感染症、性感染症 確認テスト				ウイルス感染症、性感染症の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
4	第2章;消化管疾患 口腔疾患、食道疾患				口腔疾患、食道疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
5	第2章;消化管疾患 胃・十二指腸疾患				胃・十二指腸疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
6	第2章;消化管疾患 腸疾患				腸疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
7	第2章;消化管疾患 腸疾患、腹膜疾患				腸疾患、腹膜疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
8	確認テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9	第3章;肝・胆・膵疾患 肝臓疾患				肝臓疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
10	第3章;肝・胆・膵疾患 肝臓疾患、胆道疾患				肝臓疾患、胆道疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
11	第3章;肝・胆・膵疾患 胆道疾患、膵臓疾患 確認テスト				胆道疾患、膵臓疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
12	第4章;呼吸器疾患 感染性呼吸器疾患				感染性呼吸器疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
13	第4章;呼吸器疾患 閉塞性呼吸器疾患、拘束性呼吸器疾患				閉塞性呼吸器疾患、拘束性呼吸器疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
14	第4章;呼吸器疾患 その他の呼吸器疾患				その他の呼吸器疾患の臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
15	期末テスト 解説				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	2	開講区分	通年	担当教員 佐々木 史子先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
臨床医学各論Ⅰ									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
様々な疾患の鑑別を行ってきた教員が、主要な疾患の一般的な臨床症状、病態、診断、治療法について、基礎的な知識や理解を深める授業を行う。 座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。									
〔到達目標〕									
腎・尿器疾患、内分泌疾患、代謝・栄養疾患、整形外科疾患の知識を習得することを目標とする。 各疾患について、国家試験合格の為に必要な知識量を有することができる。									
〔使用教材、参考文献等〕 臨床医学各論(医歯薬出版)					〔準備学習・時間外学習〕 専門用語が多い科目のため、予め教科書を読み予習してくること。また授業後は復習をし、各単元で学んだ疾患について必要な知識を列挙できるようになることが望ましい。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
16	第5章;腎・尿器疾患 原発性糸球体腎炎、腎不全				原発性糸球体腎炎、腎不全疾患について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
17	第5章;腎・尿器疾患 感染症、腫瘍性疾患				感染症、腫瘍性疾患について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
18	第5章;腎・尿器疾患 腫瘍性疾患、結石症、前立腺疾患 確認テスト				腫瘍性疾患、結石症、前立腺疾患について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
19	第6章;内分泌疾患 下垂体疾患、甲状腺疾患				下垂体疾患、甲状腺疾患について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
20	第6章;内分泌疾患 副腎疾患 確認テスト				副腎疾患について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
21	第7章;代謝栄養疾患 糖代謝異常、脂質代謝異常				糖代謝異常、脂質代謝異常について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
22	第7章;代謝栄養疾患 尿酸代謝異常、その他の代謝異常症 確認テスト				尿酸代謝異常、その他の代謝異常症について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
23	第8章;整形外科疾患 総論、関節疾患				整形外科疾患総論、関節疾患について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
24	第8章;整形外科疾患 骨代謝性疾患・骨腫瘍				骨代謝性疾患・骨腫瘍について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
25	第8章;整形外科疾患 筋・腱疾患、形態異常				筋・腱疾患、形態異常について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
26	第8章;整形外科疾患 脊椎疾患、脊髄損傷				脊椎疾患、脊髄損傷について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
27	第8章;整形外科疾患 外傷				外傷について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
28	第8章;整形外科疾患 外傷、その他の整形外科				外傷、その他の整形外科について臨床症状、病態、診断、治療法について、理解できる。				
29	第8章 整形外科疾患その他整形外科				解剖生理を復習しながら、病態を推測する。病態を考えながら症状、診断、治療法について理解できる。				
30	期末評価試験				試験により知識のアウトプットを行い、復習すべきポイントを理解する。				
〔評価について〕 試験はFormsにて行う。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 授業毎の練習問題に取り組み、知識の積み重ねをすること。資料をデジタルノート等を活用し、時間場所を選ばずに復習できる環境を自ら築くように工夫すること				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科	学年	2	開講区分	半期	担当教員 高濱 晴美先生			
授業科目名	東洋医学概論Ⅱ	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数	15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

東洋医学を通じて地域の健康増進に努めた教員が、鍼灸の基礎となる東洋医学の考え方や体・病の捉え方など基本から習得できる授業を行なう。初めて聞くような言葉や漢字がたくさん出てくるので、意味などを覚えながら受講できるよう、復習も欠かさず授業に臨んで欲しい。

〔到達目標〕

鍼灸の基本となる東洋医学の知識を復習しながら、応用できるようになる。また、東洋医学的な人体の考え方や病気の考え方を修得し実技にも結びつけることが出来るようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

新版 東洋医学概論(医道の日本社)

〔準備学習・時間外学習〕

毎回小テストを実施するので前回の授業の復習をしっかりとってきてください。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	四診について(望診)①	人体を見るだけで身体の悪いところなどが分かるようになる。
2	四診について(望診)②	人体を見るだけで身体の悪いところなどが分かるようになる。
3	四診について(聞診)①	声や臭いなどから身体の悪いところなどが分かるようになる。
4	四診について(聞診)②	声や臭いなどから身体の悪いところなどが分かるようになる。
5	確認テスト 解答・解説	中間テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
6	四診について(問診)①	患者さんに対してどのような内容の質問をし、答えてもらうかを理解し実践できるようになる。
7	四診について(問診)②	患者さんに対してどのような内容の質問をし、答えてもらうかを理解し実践できるようになる。
8	四診について(切診)①	直接触れて身体の悪いところなどが分かるようになる。
9	振り返りと四診の続き	テストの振り返りを行い、習得できていないところを再確認する。四診の切診について理解を深める。
10	四診合参について	四診を総合的に判断し、病状を明らかにすることで正確な弁証を行なって治療へと結びつけることが出来る。
11	弁証について(八綱弁証、気血津液弁証、臓腑弁証)	それぞれの弁証を理解し、特徴を理解することが出来る。
12	弁証について(経絡弁証、六経弁証、衛気営血弁証など)	それぞれの弁証を理解し、特徴を理解することが出来る。
13	論治について(治則、治法、治療法の概要)	具体的な治療方針について学び理解することが出来る。
14	弁証論治の進め方と証の決定について	弁証の手順の確認をして、臨床に活かせるようになる。
15	期末テスト 解答・解説	期末テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

評価は 筆記試験で行う。
筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科	学年	2	開講区分	通年	担当教員 進藤 千聖先生		
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数 15
応用はり実技								

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

大関節を中心に構造機能を理解した上で、主要筋肉、靱帯への刺鍼を行う。また、適正に機材の使用を行い鍼通電療法を実施する。

主動筋と拮抗筋の関係性を刺鍼前・後の評価から理解する。施術者および患者役として体感した情報を元に関連する知識を自ら調べ、

〔到達目標〕

鍼灸治療の現場で対応する確立の高い整形外科疾患を中心に病態鑑別ができるようになる。また、病態に応じた患部への鍼施術が指示通りに出来る。

〔使用教材、参考文献等〕

練習用動画、配布資料

〔準備学習・時間外学習〕

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	ガイダンス・基本的な刺鍼方法の復習	科目履修のポイントを理解する。頭頸部への直刺ができる。
2	通電療法の基本	通電療法で使用する機材を基本操作を身に付ける。
3	肩部の刺鍼	肩関節の構造および機能の復習 主要筋への刺鍼と通電
4	頭頸部の刺鍼①	頭頸部の構造および機能の復習 つまみ押手の習得
5	頭頸部の刺鍼②	頭頸部の構造および機能の復習 頭部への横刺
6	肘部～前腕部の刺鍼	肘関節・手関節の構造および機能の復習 前腕屈筋群および伸筋群への刺鍼と通電
7	肩甲間部の刺鍼	肩背部の筋肉層を理解し、安全な刺鍼操作を行う。
8	腰部の刺鍼	腰部の筋としての作用を理解し、可動域検査により施術の目 標部位を鑑別し適切に刺鍼操作を行う。
9	腰部～殿部の刺鍼	骨盤部の構造と機能について理解する。 股関節周囲の触察と刺鍼を適切に行う。
10	股関節部の刺鍼	可動域検査を目標に施術部位の選定と触察を中心に行う。 患部への刺鍼および通電を適切に行う。
11	膝部の刺鍼	膝関節の構造と機能を理解する。 膠原組織への通電を学ぶ。
12	下腿の刺鍼①	下腿の構造と機能を理解する。 通電を適切に行う。
13	下腿の刺鍼②	下腿の構造と機能を理解する。 通電を適切に行う。
14	中間総括試験(実技)	1～13回の内容の確認を実技にて行う。
15	通電療法の総復習	中間試験の総括を行い、修正が必要な技術の復習を行う。

〔評価について〕

実技試験およびFormsにて確認試験行う。
実技試験は確認試験と期末試験の合計100点で評価する。評価については学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

与えられた課題に対して取り組み、その結果を自分なりに分析を行うよう努めること。不透明な部分については明確にするよう行動を起こすこと。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	2	開講区分	通年	担当教員 東 路子先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
応用はり実技									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
大関節を中心に構造機能を理解した上で、主要筋肉、靱帯への刺鍼を行う。また、適正に機材の使用を行い鍼通電療法を実施する。									
主動筋と拮抗筋の関係性を刺鍼前・後の評価から理解する。施術者および患者役として体感した情報を元に関連する知識を自ら調べ、									
〔到達目標〕									
鍼灸治療の現場で対応する確立の高い整形外科疾患を中心に病態鑑別ができるようになる。また、病態に応じた患部への鍼施術が指示通りに出来る。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
練習用動画、配布資料									
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
16	整形外科領域の鍼通電療法				頸部の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる				
17	整形外科領域の鍼通電療法				頸部の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる				
18	整形外科領域の鍼通電療法				頸部の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる				
19	整形外科領域の鍼通電療法				肩関節部の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる				
20	整形外科領域の鍼通電療法				肩関節部の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる				
21	整形外科領域の鍼通電療法				腰部の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる				
22	整形外科領域の鍼通電療法				腰部の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる				
23	整形外科領域の鍼通電療法				膝部の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる				
24	整形外科領域の鍼通電療法				下腿後面の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる				
25	整形外科領域の鍼通電療法				股関節部の解剖を理解し、適切に刺鍼および通電ができる				
26	上肢の整形外科疾患の鑑別と通電療法				頸椎症の鑑別(神経根症の障害高位)				
27	上肢の整形外科疾患の鑑別と通電療法				胸郭出口症候群の鑑別				
28	上肢の整形外科疾患の鑑別と通電療法				肩関節周囲炎の鑑別				
29	まとめ				今まで扱った範囲の技術復習を行う				
30	期末試験				授業で扱った範囲における技術試験を行い、習熟度を測る				
〔評価について〕					〔特記事項〕				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	2	開講区分	通年	担当教員 東 路子 先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
応用はりきゅう実技									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
鍼灸師として東洋医学的知見を有している教員が、はりきゅう実技の基本実技の徹底と応用実技を通じて臨床へのステップアップの方法を教授していく。									
〔到達目標〕									
① 基本的なきゅう実技(有痕灸・無痕灸)・灸頭針を人体上に安全に実施することができる。 ② 運動器疾患の鑑別と治療方針の立て方について理解し、鍼灸の治療を計画実行を行うことはできる。									
〔使用教材、参考文献等〕 はりきゅう実技(医道の日本社) ずっと使える! 鍼灸臨					〔準備学習・時間外学習〕				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	透熱灸 ステップ①				米粒大 半米粒大 糸状灸大きさ 形をそれぞれ作ることができる。				
2	透熱灸 ステップ②				米粒大 半米粒大 糸状灸燃焼温度をコントロールすることができる。				
3	透熱灸 ステップ③				人体 一点施灸各施術部位の取穴・消毒・施術動作が一連で行える				
4	透熱灸 ステップ④				人体 一点施灸 (頭部) 頭部の施灸を安全に行うことができる。				
5	透熱灸 ステップ⑤				人体 二点交互施灸 (足裏) 二点交互を安全に行うことができる。				
6	透熱灸 ステップ⑥				人体 二点交互施灸 (下肢) 二点交互を下肢に行うことができる。				
7	透熱灸 ステップ⑦				人体 二点交互施灸 (上肢) 二点交互を上肢に行うことができる。				
8	透熱灸 ステップ⑧				人体 二点交互施灸 (腰部) 腰部に安全に二点交互施灸ができる。				
9	透熱灸 ステップ⑨				人体 二点交互施灸 (腹部) 腹部に安全に二点交互施灸ができる。				
10	透熱灸 ステップ③～⑨の練				実技レベル確認				
11	無痕灸 ステップ①				知熱灸無痕灸の分類について理解し艾炷が作れる				
12	無痕灸 ステップ②				知熱灸艾炷を用いて自分に施灸できる。				
13	無痕灸 ステップ③				知熱灸艾炷を用いて学生同士で安全に施灸できる。				
14	無痕灸 ステップ④				隔物灸 (腹部) 隔物灸を用いて腹部に施灸できる。				
15	無痕灸 ステップ⑤				隔物灸 (背部) 隔物灸を用いて背部に施灸できる。				
〔評価について〕 評価は課題提出と実技試験で行う。 実技試験は無痕灸30点 期末テスト(30点)と課題提出(40点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	2	開講区分	通年	担当教員 東 路子 先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
応用はりきゅう実技									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
鍼灸師として東洋医学的知見を有している教員が、はりきゅう実技の基本実技の徹底と応用実技を通じて臨床へのステップアップの方法を教授していく。									
〔到達目標〕									
① 基本的なきゅう実技(有痕灸・無痕灸)・灸頭針を人体上に安全に実施することができる。									
② 運動器疾患の鑑別と治療方針の立て方について理解し、鍼灸の治療を計画実行を行うことはできる。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
はりきゅう実技(医道の日本社) ずっと使える! 鍼灸臨									
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
16	特殊針法 灸頭針①				艾球の作り方散艾から丸い艾球をつくことができる。				
17	特殊針法 灸頭針②				鍼の操作と艾球(鍼枕)艾球と鍼を合わせ最後まで落下することなく実施できる。				
18	特殊針法 灸頭針③				自分自身に施灸練習灸頭針に安全燃やしきることができる。				
19	特殊針法 灸頭針④				ペアで施灸練習&実技試験無痕灸と灸頭鍼試験				
20	無痕灸と灸頭鍼試験無痕灸				大きさ形 硬さ 5分間 3壮				
21	腰痛・腰下肢痛の鑑別診断				鑑別の仕方の腰部 下肢の基本的刺鍼について理解し安全に刺鍼できる。				
22	腰痛・腰下肢痛の治療法				鑑別の仕方の腰部 下肢の基本的刺鍼について理解し安全に刺鍼できる。				
23	股関節の鑑別診断				股関節痛の鑑別について理解できる。				
24	股関節の治療法				股関節痛の施術を行うことができる。				
25	腰痛の治療法				腰痛・腰下肢痛について理解し、鑑別から施術までの流れを行うことができる。				
26	腰下肢痛の治療法				腰痛・腰下肢痛について理解し、鑑別から施術までの流れを行うことができる。				
27	膝関節の鑑別診断				膝関節の構造を理解し、鑑別から施術までの流れを行うことができる。				
28	膝関節の治療法				膝関節の構造を理解し、鑑別から施術までの流れを行うことができる。				
29	総練習日				症例問題に対して治療を組み立て刺鍼することができる				
30	期末試験				課題提出日(40点)& 腰痛・腰下肢・膝・股関節の症例について試験を行う。				
〔評価について〕					〔特記事項〕				
評価は課題提出と実技試験で行う。実技試験は無痕灸30点 期末テスト(30点)と課題提出(40点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。					必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科	学年 2	開講区分	半期	担当教員 東野 友寛先生			
授業科目名	必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数 15
リハビリテーション概論 I							

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

臨床現場で施術業務を行っている教員が、リハビリテーションの捉え方を理解し、どのような評価方法を行なうかの授業を行う。また、リハビリテーションとはどのような範疇をとらえているのかをみていき、評価方法の基礎を学ぶ。座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。

〔到達目標〕

リハビリテーションの理念やその対象の決め方、進め方などを理解する。

〔使用教材、参考文献等〕

リハビリテーション医学(医歯薬出版)

〔準備学習・時間外学習〕

リハビリテーションの理解を深めるため、難しい用語の意味まで理解し復習を重ねることが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	リハビリテーションと障害	基本理念を理解する。
2	IHIDHとICF	ICFを理解する。
3	リハビリテーションの対象	身体障害について理解する。
4	リハビリテーションの進め方	チームアプローチの理解をする。
5	高齢者と高齢社会/確認テスト①	高齢者の特性を理解する。
6	MMTとROM	MMTとROMの違いを理解する。
7	活動の評価	バーセルインデックス・FIMを理解する。
8	廃用症候群	廃用症候群とは何かを知り、症状や原因などを理解し、どのようなリハビリを行なうかを理解する。
9	ブルンストームのステージ/確認テスト②	痙性マヒと弛緩性マヒの違いを理解する。
10	理学療法	理学療法を理解する。
11	作業療法	作業療法を理解する。
12	言語聴覚療法	言語聴覚療法を知り、理解する。
13	補装具療法、リハビリテーション看護、ソーシャルワーク	補装具療法、リハビリテーション看護、ソーシャルワークについて理解できる
14	総復習	授業の振り返りを行い、習熟度を高めることができる。
15	期末テスト 解答・解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深めることができる。

〔評価について〕

評価は 筆記試験で行う。
筆記試験は確認テスト①確認テスト②期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科	学年	2	開講区分	半期	担当教員 柏崎 雅大先生		
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	30 (1)	授業回数 15
はりきゅう治効理論								

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

鍼灸師として地域住民の健康増進に貢献している教員が、多種の鍼灸施術の方法を指導し、適切な施鍼・施灸技術を習得するための授業を行なう。応用技術習得と並行し、現場で通用するような基礎技術の向上が目的にある為、現場で必要とされる技術を身に付けられるよう授業に臨んでほしい。

〔到達目標〕

なぜ鍼灸治療が効果があるのかの説明ができるような知識を習得する。

〔使用教材、参考文献等〕

はりきゅう理論[医道の日本社]

〔準備学習・時間外学習〕

専門用語が多い科目のため予め教科書を読み予習してくること。
また、授業後は復習をし、用語の意味を理解することが望まし

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	オリエンテーション第9章 鍼灸治効の基礎 1、痛み感覚の受容と伝導	痛みの種類とそれぞれの特徴を理解できる。
2	第9章痛み感覚の受容と伝導～温度感覚の受容と伝達	痛覚受容器の種類と特徴、痛覚の伝導路を理解できる。
3	第9章触圧感覚の受容と伝達～鍼灸刺激と反射①	触圧感覚の受容と伝達について理解できる。鍼灸刺激と関連する反射を理解できる①
4	第9章鍼灸刺激と反射②	鍼灸刺激と関連する反射を理解できる②
5	第9章鍼鎮痛①	鍼鎮痛について理解できる①
6	第9章鍼鎮痛②	鍼鎮痛について理解できる②
7	確認テスト解答・解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。
8	第9章刺激と反応	鍼灸施術における局所の反応が理解できる。
9	第10章 鍼灸療法の一般治効理論自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響①	自律神経の概要が理解できる。
10	第10章自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響②	鍼灸治療が自律神経に及ぼす鍼灸刺激の影響を理解できる。
11	第10章生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響	生体防御機構に及ぼす鍼灸刺激の影響を理解できる。
12	第10章鍼刺激による免疫系への影響	鍼刺激による免疫系への影響、鍼灸刺激と神経系・内分泌系・免疫系の相互作用を理解できる。
13	第11章 関連学説サイバネティックス学説～ストレス学説①	鍼灸治効を考えるうえで参考となる学説を理解できる①
14	第11章ストレス学説～圧発汗反射	鍼灸治効を考えるうえで参考となる学説を理解できる②
15	期末試験解答・解説	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモを取ること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行う。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	2	開講 区分	通年	担当教員 高濱晴美/東路子先生					
授業科目名						必修/ 選択	必修	授業 形態	講義	時間数 (単位)	60 (2)
東洋医学臨床論Ⅰ											
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)											
東洋医学を通じて地域の健康増進に努めた鍼灸師が、症候を現代医学的、東洋医学的にとらえ、診断・治療について考える能力を習得する授業を行う。 鍼灸の臨床現場に必須の能力であることを意識して授業に臨んでほしい。 様々な患者を想定し自分自身で考えながら授業に臨んでほしい。											
〔到達目標〕											
症状を現代医学的、東洋医学的に理解し、診断、治療方針の組み立てができる。											
〔使用教材、参考文献等〕 東洋医学臨床論(医道の日本社)						〔準備学習・時間外学習〕 解剖学や東洋医学概論、経絡経穴概論の知識が必要になるため、1年次に授業で習ったことを復習し、また刺鍼に対しても基礎的な技術の復習をし、確実に身に付けることが望ましい。					
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
1	第1章 総論、第2章 各論「眼精疲労」				東洋医学概論を学び終え、更なるステップアップのための東洋医学臨床論を学ぶための導入部分の理解ができる。						
2	各論「気分障害(うつ状態)」、「めまい」				それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。						
3	各論「めまい」、「動悸・息切れ」				それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。						
4	各論「動悸・息切れ」、「血圧異常」				それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。						
5	各論「血圧異常」、「睡眠障害」				それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。						
6	各論「睡眠障害」、「咳嗽と喀痰」				それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。						
7	各論「咳嗽と喀痰」、「呼吸困難」				それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。						
8	各論「鼻閉・鼻汁」、「脱毛症」				それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。						
9	確認テスト				ここまでの復習を兼ねた確認テストの実施						
10	各論「脱毛症」、「耳鳴り・難聴」				それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。						
11	各論「耳鳴り・難聴」、「排尿障害」				それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。						
12	各論「排尿障害」、「ED」				それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。						
13	各論「ED」、「疲労と倦怠」				それぞれの病について東洋医学的、西洋医学的理解とその治療を理解する。						
14	期末テスト				期末テストで実力確認						
15	期末テスト返却と解説				返却されたテストの見直し、苦手な部分を理解しておこう！						
〔評価について〕 評価は確認テストと期末テストを実施、合計100点満点で行う。						〔特記事項〕 それぞれの病気について毎回、授業後復習をしましょう。学習量が多いため復習が必須です。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	2	開講区分	通年	担当教員 高濱晴美/東路子先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数 (単位)	60 (2)	授業回数	30
東洋医学臨床論Ⅰ									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
西洋医学・東洋医学に基づく病態把握をするため東西の知識を整理統合した内容を説明していく。予防医学的な部分の生活指導なども含め 臨床現場における必要な知識の考え方をを習得して欲しい。									
〔到達目標〕									
①西洋医学的病態把握と鑑別できる ②東洋医学的病態把握と鑑別できる ③病態把握後、選穴 生活指導までの知識の習得が出来ている。									
〔使用教材、参考文献等〕 病態生理学 臨床医学各論 臨床医学総論				〔準備学習・時間外学習〕 遭遇する頻度が高い症候を中心に病態生理・鑑別と主要な原因疾患を調べ学習すること。また、経絡経穴についても復習しておくこと。					
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
16	第1節疼痛概要				頭痛西洋医学的・東洋医学的に病態把握できる				
17	顔面痛				西洋医学的・東洋医学的に病態把握できる				
18	関節痛				頸肩腕痛西洋医学的・東洋医学的に病態把握できる				
19	上肢痛				西洋医学的・東洋医学的に病態把握できる				
20	肩関節痛				西洋医学的・東洋医学的に病態把握できる				
21	中間試験				病態を把握し鑑別診断できる。				
22	胸痛				西洋医学的・東洋医学的に病態把握できる				
23	腹痛				西洋医学的・東洋医学的に病態把握できる				
24	食欲不振				西洋医学的・東洋医学的に病態把握できる				
25	肥満とやせ				西洋医学的・東洋医学的に病態把握できる				
26	悪心嘔吐				西洋医学的・東洋医学的に病態把握できる				
27	便秘				西洋医学的・東洋医学的に病態把握できる				
28	下痢				西洋医学的・東洋医学的に病態把握できる				
29	歯痛				西洋医学的・東洋医学的に病態把握できる				
30	期末試験				病態を把握し鑑別診断できる。				
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は中間テスト(50点)と期末テスト(50点)の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。腰下肢痛 腰痛 下肢痛 膝痛に関しては 応用はりきゅう実技にて講義を行う。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科	学年	2	開講区分	半期	担当教員		
授業科目名						深山 俊先生		
病態生理学		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数
								15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

鍼灸師として地域住民の健康増進に貢献している教員が、現代西洋医学をベースに病態把握・鑑別をするために必要な知識を習得するための授業を行なう。
座学での授業である為、復習と予習を行なって授業に臨んで欲しい。また統合医療の必要性を理解し、鍼灸師が担う医療について知見を広めて欲しい。

〔到達目標〕

臨床医学総論や臨床医学各論の知識に肉付けし、臨床科目の理解を促すことを目的として、病態把握・鑑別の必要性を理解し、重篤な疾患や緊急を要する病態を見落とさないための知識を習得することを目標とする。

〔使用教材、参考文献等〕

臨床家のための基礎からわかる(医道の日本社)
臨床医学各論(医歯薬出版)

〔準備学習・時間外学習〕

専門用語が多い科目のため、予め教科書・参考書を読み予習してくる。また授業後は復習をし、各単元で学んだ疾患について必要な知識を列挙できるようになることが望ましい。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	痛みとは	痛みの分類を理解できる。
2	痛みとは	痛みの発生機序を理解できる。
3	＜痛み 確認テスト＞消化管疾患の病態生理	消化器疾患の病態生理、臨床症状について、理解できる。 ＜確認テスト＞
4	消化管疾患の病態生理	消化器疾患の病態生理、臨床症状について、理解できる。
5	＜消化管 確認テスト＞肝・胆・膵疾患の病態生理	肝・胆・膵疾患の病態生理、臨床症状について、理解できる。 ＜確認テスト＞
6	肝・胆・膵疾患の病態生理	肝・胆・膵疾患の病態生理、臨床症状について、理解できる。
7	肝・胆・膵疾患の病態生理＜肝・胆・膵疾患 確認テスト＞	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。 ＜確認テスト＞
8	耳鳴りの病態生理	耳鳴りの病態生理、臨床症状について、理解できる。
9	耳鳴りの病態生理	耳鳴りの病態生理、臨床症状について、理解できる。
10	＜耳鳴り 確認テスト＞難聴の病態生理	難聴の病態生理、臨床症状について、理解できる。 ＜確認テスト＞
11	難聴の病態生理	難聴の病態生理、臨床症状について、理解できる。
12	＜難聴 確認テスト＞眩暈の病態生理	眩暈の病態生理、臨床症状について、理解できる。 ＜確認テスト＞
13	眩暈の病態生理	眩暈の病態生理、臨床症状について、理解できる。
14	＜眩暈 確認テスト＞病態生理の総復習	病態生理学の知識を確認し、試験における自らの課題発見ができる。 ＜確認テスト＞
15	期末テスト	テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。

〔評価について〕

評価は筆記試験で行う。
筆記試験は確認テストと期末テストの合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。
必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	2	開講区分	半期	担当教員 東 路子 先生			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	15(1)	授業回数	8
保険の仕組みと職業倫理									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
鍼灸の保険請求業務を経験している教員が、高齢化社会における保険の役割を理解し、鍼灸施術における保険制度の仕組みについて授業を展開する。 日本における社会保障制度を理解し、医療保険・年金保険・介護保険の仕組みを説明できるようになって欲しい。									
〔到達目標〕									
社会保障と社会保険制度について説明することができる。 また、鍼灸師として保険を利用することを理解し仕組みを説明できる。									
〔使用教材、参考文献等〕			〔準備学習・時間外学習〕 授業後は復習をし用語の意味を理解することが望ましい。						
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	社会保障制度の中の社会保険について				日本においての社会保障制度について理解することができる。社会保険の5つについて学び理解することができる。				
2	社会保険制度(医療保険)				医療保険の仕組みについて理解できる。				
3	社会保険制度(年金保険)				年金保険の仕組みについて理解できる。				
4	社会保険制度(介護保険)				介護保険制度の仕組みについて理解できる。				
5	保険と鍼灸師				社会保険のなかで鍼灸施術が保険として利用できる仕組みを理解する。				
6	社会保険制度労働保険(雇用保険と労災保険)				労働保険制度の仕組みについて理解できる。				
7	職業倫理				医療倫理・職業倫理について理解し鍼灸師としての倫理を考えることができる。				
8	期末試験				テストにより効果測定を行い、習得できていないところを把握し、理解度を深める。				
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
〔評価について〕 評価は筆記試験で行う。 筆記試験は100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			〔特記事項〕 毎授業において重要事項については下線を引いたりメモをとること。 必要に応じ配布プリントによる授業を行なう。						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース	鍼灸師科	学年	2	開講区分	半期	担当教員		
授業科目名						笠井 友和 先生	他、専任教員	
触擦解剖Ⅱ		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数15

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

鍼灸師として臨床の現場で地域住民の健康増進に貢献している教員が、体表解剖と経穴について指導し、取穴技術を習得する授業を行なう。また様々な疾患の鑑別に従事していた教員が、临床上必要な関節可動域測定や徒手筋力検査を実技形式で行う。卒業に関わる実技試験で問われる内容(ROM・反射検査・徒手検査法)なので主体的に取り組んで欲しい。より臨床的な内容になるため、治療のイメージが持てるようになって欲しい。

主要な関節の可動域(ROM)・徒手筋力検査(MMT)、腱反射・病的反射による神経の診察法、徒手検査法ができるようになる。

〔使用教材、参考文献等〕

ずっと使える！鍼灸臨床BOOK

〔準備学習・時間外学習〕

技術を習得する実技授業であるため、反復練習をし習得に努める

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
1	血圧測定	血圧計の取り扱いと正しい計測方法が実践できる。
2	現代医学的診察 腱反射、病的反射	腱反射、病的反射の方法を実践できる。
3	現代医学的診察 徒手検査法 頸肩部	頸肩部の徒手検査法を実践できる。
4	現代医学的診察 徒手検査法 腰下肢	腰部下肢の徒手検査法を実践できる。
5	現代医学的診察 徒手検査法 その他、徒手検査の総復習	その他の徒手検査を実践できる。患者役に徒手検査法の意義を説明し、測定できる。
6	ROM概要・頸部ROM測定	ROMの概要(計測方法・器具の使い方)を理解し模倣できる。頸部の運動方向と参考可動域を理解し、測定できる。
7	上肢ROM測定	上肢(肩関節・肘関節・手関節)の運動方向と参考可動域を理解し、測定できる
8	下肢ROM測定	下肢(股関節・膝関節・足関節)の運動方向と参考可動域を理解し、測定できる。
9	MMT概要・頸部MMT測定	MMTの概要(6段階評価・測定方法)を理解し模倣できる。頸部の運動方向を理解し、測定ができる。
10	上肢MMT測定	上肢(肩関節・肘関節・手関節)の運動方向を理解し、測定できる。
11	下肢MMT測定	下肢(股関節・膝関節・足関節)の運動方向を理解し、測定できる。
12	MMT総復習(患者対応含めた対応)	患者役にMMT測定の意義を説明し、測定できる。
13	徒手検査法、ROM測定の総復習(患者対応含めた対応)	患者役に徒手検査、ROM測定の意義を説明し、測定できる。
14	確認テスト 徒手検査法	徒手検査法のテストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。
15	期末テスト ROM測定	ROM測定のテストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。

〔評価について〕

評価は確認テスト・期末テスト(計100点)で評価する。評価は学則規定に準ずる。

〔特記事項〕

必要に応じてプリントを配布する。

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	2	開講区分	半期	担当教員 印南 秀先生他			
授業科目名		必修/選択	必修	授業形態	講義	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
社会あはき学Ⅱ									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床現場で様々な疾患の施術を行っている教員が、多様な臨床現場でのあはき師の業務・役割について教授する。また、鍼灸師の新たな働き方や分野の創造、はりきゅう経営に関わる経営学を講義・ワーク形式で行う。									
〔到達目標〕									
1年次に学んだ社会あはき学の内容を踏まえ、様々な現場で活動する鍼灸師の仕事・役割をすることで、自身の将来像をより明確に出来る。 独立開業権を有する鍼灸師として、治療院経営をイメージできる。									
〔使用教材、参考文献等〕 社会あはき学				〔準備学習・時間外学習〕 講義内容を復習し、自分自身の将来像を明確にする。					
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	鍼灸師としての活躍の場①			あはき師としての活躍の場と治効について理解できる。					
2	鍼灸師としての活躍の場②			あはき師としての活躍の場と治効について理解できる。					
3	鍼灸師としての活躍の場③			あはき師としての活躍の場と治効について理解できる。					
4	鍼灸師としての活躍の場④			あはき師としての活躍の場と治効について理解できる。					
5	はりきゅう経営論 オリエンテーション 業界理解			健康産業について理解できる					
6	SDGSと鍼灸			SDGsについて理解し、鍼灸業界との関連を考える					
7	鍼灸の働き方			鍼灸師の働き方について考えることが出来る。					
8	ESGについて			日本のESGと業界のESGについて考えること出来る。					
9	個人ワーク			鍼灸の働き方について考えることが出来る。					
10	CSRとCSV			コンプライアンスと共有価値の創造を理解できる。					
11	市場調査			競合する業界の調査ができる。					
12	グループワーク①			グループで成果物を作成する。					
13	グループワーク②			グループで成果物を作成する。					
14	期末試験(発表)			グループで作成した成果物の発表を行う。					
15	期末試験(発表)			グループで作成した成果物の発表を行う。					
〔評価について〕 評価は授業内で行うワークでの成果物と発表にて行う。				〔特記事項〕 必要に応じてプリントを配布する。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年 2	開講区分	半期	担当教員				
授業科目名					専任教員				
認定実技(OSCE) I		必修/選択	必修	授業形態	実技	時間数(単位)	30(1)	授業回数	15
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
臨床現場で様々な患者に関わってきた教員が、臨床実習に臨むために医療人としてふさわしい技術・知識を身につけるための講義を行う。									
〔到達目標〕									
客観的臨床能力試験に向けたコミュニケーション技法を把握できる。 医療人として必要とされる技術・知識を理解できる。									
〔使用教材、参考文献等〕					〔準備学習・時間外学習〕				
ずっと使える！鍼灸臨床BOOK(滋慶教育科学研究所)					講義内容を復習すること。				
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	実習前教育(1) 実習概要説明				実習生として必要なマナーを知り、身だしなみや態度に留意できる。				
2	個人情報の取り扱い				個人情報取り扱いの注意点を正しく理解できる。				
3	医療面接の概要 冊子を見てプレイ				医療面接における聴取事項と面接者としての配慮を理解できる。SOAP形式による記載事項を理解できる。				
4	医療面接ロールプレイ(3人1組 時間10分)冊子を見ないでプレイ				医療面接に必要な項目を聴取し、メモを取ることができる。				
5	医療面接ロールプレイ(3人1組 時間8分)冊子を見ないでプレイ				医療面接に必要な項目を聴取し、メモを取ることができる。				
6	確認テスト(医療面接)				医療面接のテストにより効果測定を行い、未修得技術を把握し、技術練習の必要性が理解できる。				
7	リスク管理				医療現場におけるリスクファクターと対策を知ることができる。				
8	実習前教育(2) 治療院実習の注意点				実習生として相応しい身だしなみや態度、マナー等を体現し、実習教育に臨む準備ができる。				
9	実習前教育(3) 実習管理と実習マナー教育				実習概要を再確認し、出欠表やデリーノートなど実習の管理方法を理解できる。				
10	実習前教育(4) 実習管理と実習マナー教育				お礼状、実習生紹介書の書き方について理解し、作成できる。				
11	臨床教育(1) 疾患別モデル作成				症例について学び、患者モデル作成の準備ができる。				
12	臨床教育(2)				一般臨床で行われる治療法を学習できる。				
13	臨床教育(3) 症例報告				作成した患者モデルを発表できる。				
14	臨床実習総括(1)				実習報告を通して内省し、今後さらに学んで行くべき事柄を自ら見出し、自身の課題発見ができる。				
15	臨床実習総括(2) 期末評価				実習報告を通して内省し、今後さらに学んで行くべき事柄を自ら見出し、自身の課題発見ができる。				
〔評価について〕					〔特記事項〕				
評価は医療面接による確認テストとレポートの合計100点で行なう。評価は学則規定に準ずる。					学生は実習を受けさせていただくにあたり、対人におけるマナー、礼節、リスク管理、時間管理を疎かにしてはならない。効果的な実習体験ができるよう、どのような行動を取るべきかを常に考え、分からない事や知りたい事は自らアドバイスを求めること。				

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年 2	開講区分 通年	担当教員 専任教員			
授業科目名 総合学習				必修/選択	必修	授業形態 講義/演習	時間数(単位) 60(2)
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)							
鍼灸師として臨床現場で活躍してきた教員が、医療人を目指す上で必要な能力を、能動的に学習できるよう学習技法を習得する授業を行う。 コミュニケーションスキルが医療を学ぶ上で必須の能力であることを意識して臨んでほしい。							
〔到達目標〕							
集団行動を通して、医療人を目指す上で必要とされる基礎的なコミュニケーション能力と能動的学習法を習得する。							
〔使用教材、参考文献等〕				〔準備学習・時間外学習〕 講義内容を復習すること。各々が一社会人となる意識を持ち、人格形成に努めること。			
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)			
1	スポーツ現場・ベッドサイドで求められる知識・技術①			医療・スポーツ現場で活用できる知識・技術ができるようになる			
2	スポーツ現場・ベッドサイドで求められる知識・技術②			医療・スポーツ現場で活用できる知識・技術ができるようになる			
3	スポーツ現場・ベッドサイドで求められる知識・技術③			医療・スポーツ現場で活用できる知識・技術ができるようになる			
4	スポーツ現場・ベッドサイドで求められる知識・技術④			医療・スポーツ現場で活用できる知識・技術ができるようになる			
5	スポーツ現場・ベッドサイドで求められる知識・技術⑤			医療・スポーツ現場で活用できる知識・技術ができるようになる			
6	職業倫理と系統解剖①			解剖見学にあたり命の尊さや献体への感謝の気持ちを持てる。			
7	職業倫理と系統解剖②			解剖見学にあたり命の尊さや献体への感謝の気持ちを持てる。			
8	職業倫理と系統解剖③			解剖見学をとおして知識の再習得が出来る			
9	職業倫理と系統解剖④			解剖見学をとおして知識の再習得が出来る			
10	職業倫理と系統解剖⑤			解剖見学をとおして知識の再習得が出来る			
11	業界への理解と自身の未来①			これから求められる鍼灸師の能力について理解し、自分で考えを述べる事が出来る。			
12	業界への理解と自身の未来②			これから求められる鍼灸師の能力について理解し、自分で考えを述べる事が出来る。			
13	業界への理解と自身の未来③			これから求められる鍼灸師の能力について理解し、自分で考えを述べる事が出来る。			
14	業界への理解と自身の未来④			これから求められる鍼灸師の能力について理解し、自分で考えを述べる事が出来る。			
15	業界への理解と自身の未来⑤			これから求められる鍼灸師の能力について理解し、自分で考えを述べる事が出来る。			
〔評価について〕 評価はレポート提出による。評価は学則規定に準ずる。				〔特記事項〕			

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	1	開講区分	通年	担当教員 日本ライフセービング協会／専任教員					
授業科目名						必修/選択	必修	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60 (2)
総合学習											
〔授業の学習内容と心構え〕											
BLSについて知見のある教員が、BLSの基本的な知識と技術に関わる講義と実技を行なう。鍼灸師として心身の健康を支えるために必要なBLSの資格講習となるため、積極的に授業に臨んで欲しい。現代医学的診察法においては臨床現場で必要な診察の基礎、血圧測定法やその意義を理解するための授業を行う。また座学科目の総合的知識確認の為に効果測定を行う。											
〔到達目標〕											
BLSの資格を取得を目標とする。臨床現場や日常生活で救命措置が必要な場面に遭遇した際、適確な判断のもと、対処できる知識と技術を習得する。現代医学的診察法では、臨床現場で必要となる血圧測定法・意義を理解し、適確に行える技術を習得する事を目的とする。また座学科目の総合的知識を確認し、知識の定着を目的とする。											
BLS;心肺蘇生教本(ライフセービング協会) 現代医学的診察法;ずっと使える! 鍼灸臨床BOOK (滋慶出版)						〔準備学習・時間外学習〕 BLS;資格講習となるため、繰り返し復習することが望ましい。現代医学的検査法;検査法の意義、方法を理解するため、解剖学や生理学を復習して授業に臨んで欲しい。					
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)						
16	心肺蘇生法とAEDの使用について(1)				BLSの概要を理解できる。						
17	心肺蘇生法とAEDの使用について(2)				BLSの基礎知識を理解できる。						
18	心肺蘇生法とAEDの使用について(3)				心肺蘇生法の手順、AEDの使用法を模倣することができる。						
19	心肺蘇生法とAEDの使用について(4)				心肺蘇生法の手順、AEDの使用法を模倣することができる。						
20	心肺蘇生法とAEDの使用について(5)				心肺蘇生法、AEDの使用法を実践することができる。						
21	心肺蘇生法とAEDの使用について(6)				心肺蘇生法、AEDの使用法を実践することができる。						
22	心肺蘇生法とAEDの使用について(7)				心肺蘇生法、AEDの使用法を身につけることができる。						
23	心肺蘇生法とAEDの使用について(8)				資格認定試験を行なう。						
24	多様化する業界①				卒業生話を聞き、学校生活のイメージができる。						
25	多様化する業界②				卒業生話を聞き、学校生活のイメージができる。						
26	多様化する業界③				様々な分野で活躍するセラピスト話を聞き、将来像を明確にできる。						
27	確認テスト(1)				四肢択一形式のテストを行い、総合的な知識の習熟度を理解できる。						
28	確認テスト(1) レポート				テストにより効果測定を行い、レポートにより習得できていないところを把握し、理解度を深める。						
29	確認テスト(2)				四肢択一形式のテストを行い、総合的な知識の習熟度を理解できる。						
30	確認テスト(2) レポート				テストにより効果測定を行い、レポートにより習得できていないところを把握し、理解度を深める。						
〔評価について〕 評価は確認テスト・レポート評価を2回実施し、合計100点で評価する。評価は学則規定に順ずる。						〔特記事項〕 救命救急技術の演習を行なうため、動きやすい服装(スカート不可)で参加すること。					

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	2	開講区分	通年	担当教員 各実習地指導者又は専任教員			
授業科目名		必修/ 選択	必修	授業形態	実習	時間数 (単位)	90 (2)	授業回数	—
臨床実習Ⅰ									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する) 5年以上開業ならびに5年以上の臨床経験を持ち、講習会を受講しているまたは専任教員資格を有する実習指導者が、鍼灸師のスペシャリストを目指すために、患者接遇や院内コミュニケーションの重要性を取得する実習を行なう。 鍼灸師としてのやりがいや重要性を見つけ、専門職として必要なことは何かを考えながら実習してほしい。 実習となるため、報告・連絡・相談を忘れず実習に臨んでほしい。									
〔到達目標〕 挨拶・言葉遣い・身だしなみ等、鍼灸施術所で必要なコミュニケーションができる。 院内業務を理解し、実習指導者に適切な質問ができる。 デイリーノートをしっかりと記載し、自身の課題を把握できる。									
〔使用教材、参考文献等〕 デイリーノート			〔準備学習・時間外学習〕 コミュニケーションの基礎や実習前教育で学んだ内容を復習し実習に臨むこと。またその日のうちにその日の振り返りをし、次の実習に備えること。						
回	〔授業概要〕			到達目標(できるようになること)					
1	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
2	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
3	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
4	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
5	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
6	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
7	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
8	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
9	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
10	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
11	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
12	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
13	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
14	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
15	鍼灸施術所による臨床実習			実習を通して、現場で必要なコミュニケーション力、現場力を身に付ける					
〔評価について〕 評価は別途評価表で行なう。 評価は現場実習評価、レポート・実習後評価の合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。			〔特記事項〕 通常授業とは異なる外部での実習となるため、緊急事項に関しては必ず指導者と学校に連絡をすること。						

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学校

学科・コース 鍼灸師科		学年	2	開講区分	通年	担当教員 鈴木 勇気/印南秀先生			
授業科目名		必修/ 選択	必修	授業形態	講義演習	時間数 (単位)	60 (2)	授業回数	30
総合スポーツ演習Ⅰ									
〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)									
スポーツ現場でトレーナーの仕事を経験した鍼灸師の資格を持った教員が、身体各部位のスポーツ傷害について、怪我の発症から検査、評価などに関する知識をグループワークを交えながら学ばせていく。 スポーツ現場での選手や治療院でのスポーツ傷害を持った患者に対応できるよう、スポーツ社会に貢献するという意識を持って学んでほしい。									
〔到達目標〕									
スポーツ傷害における簡単な発症機序から検査・評価について理解する事ができる。 スポーツ傷害における病態把握の重要性を理解する事ができる。									
〔使用教材、参考文献等〕				〔準備学習・時間外学習〕					
				運動器における身体各部位の解剖学を復習し授業に臨むこと。また、動作チェックやテスト法など検査についてしっかりと復習し、適確にできるよう練習する事。					
回	〔授業概要〕				到達目標(できるようになること)				
1	講義の概要とケガ予防・競技パフォーマンス向上目的としたトレーニング指導の重要性について				トレーニングの重要性が理解できる。				
2	パートナーストレッチングの必要性和方法				パートナーストレッチングの必要性を理解するとともにパートナーストレッチングが模倣できる。				
3	スタティックストレッチングの必要性和方法				スタティックストレッチングの必要性を理解するとともにスタティックストレッチングが模倣できる。				
4	アクティブストレッチングの必要性和方法				アクティブストレッチングの必要性を理解するとともにアクティブストレッチングが模倣できる。				
5	ファンクショナルトレーニングⅠ(身体機能を正す為のトレーニングの必要性、Fascia)				動作の本質やFasciaを理解するとともにFasciaにアプローチするエクササイズが模倣できる。				
6	ファンクショナルトレーニングⅡ(姿勢・動作と呼吸の関連性、呼吸改善エクササイズ)				動作と呼吸の関連性を理解するとともに呼吸改善エクササイズが模倣できる。				
7	ファンクショナルトレーニングⅢ(コアスタビライゼーション)				体幹トレーニングの必要性を理解するとともに体幹トレーニングが模倣できる。				
8	ファンクショナルトレーニングⅤ(動作をベースに考えるストレングストレーニング)				動作をベースに考えるストレングストレーニングの必要性を理解する				
9	ファンクショナルトレーニングⅣ(ヨガを活用したトレーニング指導)				ヨガを活用したエクササイズを紹介するとともにヨガを活用した機能評価が理解できる。				
10	ファンクショナルトレーニングⅥ(バランストレーニング)				バランストレーニングの必要性を理解するとともにバランストレーニングが模倣できる。				
11	ファンクショナルトレーニングⅦ(バランスボール、メディシンボール、ストレッチボール、チューブなどを用いて)				エクササイズグッズの必要性を理解するとともに、道具を用いて多くのトレーニングが模倣できる。				
12	ファンクショナルトレーニングⅧ(評価とプログラミング)				エクササイズポーズから身体機能評価を理解するとともに模倣できる				
13	ファンクショナルトレーニングⅨ(ケーススタディを用いたグループワーク)				ケーススタディについて、身体機能評価を用いてグループで協力しながら考えることができる。				
14	トレーニング施設の管理・運営(安全及び環境の配慮、運営の際に考慮すべき事項)				トレーニング施設の管理・運営(安全及び環境の配慮、運営の際に考慮すべき事項)などを理解できる				
15	中間テスト								
〔評価について〕				〔特記事項〕					
評価はレポートもしくは筆記試験、発表により採点を行い、合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。									

2022年度 シラバス

東京メディカル・スポーツ専門学院

学科・コース 鍼灸師科	学年 2	開講区分 通年	担当教員 鈴木 勇気/印南秀先
授業科目名 総合スポーツ演習 I	必修/選択 必修	授業形態 講義演習	時間数(単位) 60(2) 授業回数

〔授業の学習内容と心構え〕(実務経験のある教員・知見を有する教員がどのような授業を実施するのかを具体的に記載する)

スポーツ現場でトレーナーの仕事を経験した鍼灸師の資格を持った教員が、身体各部位のスポーツ傷害について、私の発症から検査、評価などに関する知識をグループワークを交えながら学ばせていく。
スポーツ現場での選手や治療院でのスポーツ傷害を持った患者に対応できるよう、スポーツ社会に貢献するとい意識を持って学んでほしい。

〔到達目標〕

スポーツ傷害における簡単な発症機序から検査・評価について理解する事ができる。
スポーツ傷害における病態把握の重要性を理解する事ができる。

〔使用教材、参考文献等〕

〔準備学習・時間外学習〕

運動器における身体各部位の解剖学を復習し授業に臨む。また、動作チェックやテスト法など検査についてしっかりし、適確にできるよう練習する事。

回	〔授業概要〕	到達目標(できるようになること)
16	講義の概要とスポーツ外傷について	スポーツ外傷の基礎的な内容が理解できる。
17	足関節・足部の外傷と評価	足関節・足部の外傷と評価方法が理解できる。
18	部位別ケーススタディ(足関節捻挫)	足関節捻挫におけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。
19	膝関節の外傷と評価	膝関節の外傷と評価方法が理解できる。
20	部位別ケーススタディ(前十字靱帯損傷)	膝前十字靱帯損傷におけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。
21	肉離れの概要と評価	肉離れの概要と評価方法が理解できる。
22	部位別ケーススタディ(ハムストリング肉離れ)	肉離れにおけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。
23	打撲の概要と評価	打撲の概要と評価方法が理解できる。
24	部位別ケーススタディ(大腿部打撲)	大腿部打撲におけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。
25	肩関節の外傷と評価	肩関節の外傷と評価方法が理解できる。
26	部位別ケーススタディ(肩関節前方脱臼)	肩関節亜脱臼におけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。
27	頭・頸部外傷と評価	頭・頸部外傷と評価方法が理解できる。
28	部位別ケーススタディ(脳震盪)	脳震盪におけるケーススタディについてグループで協力しながら考えることができる。
29	スポーツ障害の概要	スポーツ障害の基礎的な内容が理解できる。

30	期末テスト	
〔評価について〕 評価はレポートもしくは筆記試験、発表により採点を行い、合計100点で評価する。評価は学則規定に準ずる。		〔特記事項〕

校

生

30

て、怪

う意

むこ
りと復

ルー

いて

プで

ルー

グ

プで

